



ソースコード

情報のつながりを合意で設計する 他者とともに自分らしくいられるためのシステムの基盤

思索駆動コース 岡本 怜

インターネットが普及した現代の情報環境は 自分らしくいることを難しくしているのではないだろうか

時間や距離等の離れた情報を
入手しやすくなった。

インターネットの普及等の
情報の環境の変化

情報が他の情報につながる可能性
が時間や距離等においてより広範囲
になった。

「情報が他の情報につながる」とは
その情報が異なるものだった場合、他の情
報も異なるものになる関係にあること。
例) 「Aさんが黒い服を着ていた」のではな
く「Aさんが白い服を着ていた」のなら、
「BさんがAさんに『その服いいね』と言っ
た」ことは起こらなかった可能性がある。

- 情報のつながりが
自分の望まないものであっても
不当であると主張できない。
- 情報のつながる範囲が
より把握しにくくなった。

自分や他者などの個人に関する情報
が、時間や距離等の離れたところ
の情報につながるが増えた。

自分の情報

例) ある場面で発言したことが再び取り上げ
られる場合について、SNSに投稿されてい
たならば、時間や距離等のより離れたところで
取り上げられる可能性が高まる。

- 自分や他者などの個人に関する
情報を含む、情報のつながり
が、自分の望まないものでも
不当であると主張できない。
- 自分や他者などの個人に関する
情報が他の情報につながる範囲
がより把握しにくくなった。

自分らしくいられない。

- 他のところでの自分と一貫性を持
って振る舞うべきというプレッ
シャーを感じて
- それを事前に危惧して「自分
らしくない」と感じる選択をする。

情報のつながりが自分の望まない
ものであるときに、不当であると
主張できる状態にする。

情報のつながる範囲を
あらかじめ決めておく。

ある情報が他の情報につながることを主張されたときに、それが不当であると主張できる範囲を、自分の同意の上で定める。

ある情報が他の情報につながることを主張されたときに、それが正当・不当であると主張できる範囲を、自分の同意の上で定める。 × 関係する人々

ある情報が他の情報につながることを正当化できる・できない範囲を
あらかじめ合意によって定めることを容易にする

ある情報が他の情報につながることを正当化できる・できない範囲を、自分の同意の上で定める。 × 関係する人々

ある情報が他の情報につながることを正当化できる・できない範囲を、自分の同意の上で定める。

ある情報が他の情報につながることを正当化できる・できない範囲を
あらかじめ合意によって定めることを容易にする

合意する人の範囲 (1対1) 合意が成立するための関係：基本単位は1対1。1対1の合意が集まることで、集団としての合意になる。同意しなかった場合、合意は成立しない。合意が成立しなかった人々では、その情報は現在の多くの情報と同様の状態。

時間・空間・文脈等の範囲 「正当化できる・できない」が適用される条件

2. 合意に関連する新たな事項を決定する

1対1の関係に分解して考える。それぞれの関係で異なる決定をする可能性がある。

[不均等な関係の場合]
A B C D
↑ 権限を持つ人

2. Bが合意を破る

あのとときAさん〇〇って言ってたから～

合意した期間外は合意をもとに主張できない

合意した期間内は合意をもとに主張できる

期間中だからおかしい

デモの概要

本システム (CLI) を用いることで、合意の作成や、ある情報のつながりが正当化できる・できない範囲に含まれるかどうかの確認等を容易に行うことができる。(ソースコードは左上のQR)

本来これらは人同士の関係の中で成立するものであり、システムではそのプロセスを支援する。最終的に情報をどう扱うかを決めるのは人である。

2. BとC間に合意はない

あのとときAさん〇〇って言ってたよ

うん、そうだった。どう思った?

合意していないBとC間で、他の情報につなげることは正当化され得る。

1. 合意

合意成立

合意不成立

↑ 合意する人の範囲 (1対1)

[合意内容]
Aさんの過去の発言について
↑「ある情報」
現在から将来のある時点まで
↑時間・空間・文脈等の範囲
他の情報につながることを正当化しない。
↑正当化できる・できない

3. Bは信用を失う

あのとときAさん〇〇って言ってたから～

強制的な措置はない。以下のマスの「合意に関する合意」をすると、信用を失うことに範囲をつけることができる。

Bさんは信用できないな

類似の方法と比較

- ◎情報そのものを消去する。
 - 消去は完全性が求められやすいが、インターネットで完全な消去は難しい。
 - 強制的な権限による消去は、知る権利とのバランスが問題になる可能性がある。
- ◎情報そのものを不可視にする。(忘れられる権利・GDPR第17条)
 - 上記「情報そのものを消去する」と同様のことは言える場合がある。
 - 情報が見え「にくく」なることで人々の行動や評価のあり方に影響を与える。
 - 自分らしくいられることにつながる。(異なるアプローチ)

3. AがBとC間の合意を要請

BとC間の合意を要請

BとC間の合意にAが参加することはできないが、合意を要請することは可能。

2. 合意更新

更新したい内容で再度合意する。タイムスタンプの遅い合意が優先される。タイムスタンプが同時の場合、判断不能のため未定の範囲となる。

[合意内容]
Aさんの過去の発言について、現在から将来のある別の時点まで、他の情報につながることを正当化しない。

2. 合意に関する合意

合意に関する合意成立

[合意内容]
1の合意について、現在から将来のある時点まで、他の情報につながることを正当化しない。合意自体を一つの情報と見て、それが他の情報につながることを正当化できる・できない範囲を考えるなら、さらに合意が必要になる。これを繰り返すと、合意は、無限の再帰的な構造になり得る。

応用例

- オンライン上のコミュニティに文章や画像を投稿
- チャットで発言を送信

次の情報につながる可能性がある情報 (新たな判断の根拠として選ばれる情報)

- 過去に食べ物をおいしいと述べたこと。
- 些細なため息
- タイプミス など

インターネットにアップロードするときに基本的にいつも本提案の合意をするようにする。